

各位

会 社 名 株式会社アイ・ピー・エス

銘 柄 名 株式会社 I P S

代表者名 代表取締役 宮下 幸治

(コード番号:4390 東証マザーズ)

問合せ先 取締役事業企画本部長 前田 知之

(TEL. 03-3549-7719)

(訂正・数値データ訂正)「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」

2020年5月15日付で開示いたしました「2020年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」につきまして、2020年3月期の個別業績に関する事項に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

なお、訂正箇所は下線にて表示しております。

記

## 1. 訂正の理由

「2020年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の提出後、記載内容の一部に誤りがあることが判明いたしましたので、訂正させていただくものです。

## 2. 訂正の内容

訂正箇所には\_\_下線を付して表示しております。

<サマリー情報 2ページ>

## 【訂正前】

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上	高	営業	利益	経常	利益	親会社株式 する当期		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5, 150	62. 9	1, 150	<u>121. 1</u>	1, 100	122. 2	750	137. 0	60. 95
通期	8, 900	<u>36. 8</u>	1, 700	<u>57. 7</u>	1, 650	<u>52. 2</u>	1, 050	<u>60. 7</u>	85. 33

#### 【訂正後】

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	5, 150	62. 9	1, 150	<u>110. 6</u>	1, 100	122. 2	750	137. 0	60.	95
通期	8, 900	<u>36. 7</u>	1, 700	58.8	1, 650	<u>53. 4</u>	1, 050	62. 7	85.	33

## 【訂正前】

## (参考) 個別業績の概要

1. 2020年3月期の個別業績(2019年4月1日~2020年3月31日)

## (2) 個別財政状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2020年3月期	6, 078	3, 640	59.8	<u>294. 75</u>
2019年3月期	5, 577	3, 161	56. 7	259. 15

(参考) 自己資本

2020年3月期 3.626百万円

2019年3月期

3.161 百万円

### 【訂正後】

## (参考) 個別業績の概要

1. 2020年3月期の個別業績(2019年4月1日~2020年3月31日)

# (2) 個別財政状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	6, 078	3, 640	59.8	<u>294. 16</u>
2019年3月期	5, 577	3, 161	56. 7	259. 15

(参考) 自己資本

2020年3月期 3,626百万円

2019年3月期

3.161百万円

## <添付資料 4ページ>

## 【訂正前】

(4) 今後の見通し

(略)

売上高 8,900 百万円 (前年同期比 36.8%増)、営業利益 1,700 百万円 (前年同期比 57.7%増)、経常利益 1,650 百万円 (前年同期比 52.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益 1,050 百万円 (前年同期比 60.7%増) の達成を見込んでおります。なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 【訂正後】

(4) 今後の見通し

(略)

売上高 8,900 百万円 (前年同期比 36.7%増)、営業利益 1,700 百万円 (前年同期比 58.8%増)、経常利益 1,650 百万円 (前年同期比 53.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益 1,050 百万円 (前年同期比 62.7%増) の達成を見込んでおります。なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。